

2025年2月定例自然観察会 実施報告書

実施日時 2025年2月8日(土) 10:00~14:45

参加者 ビジター 大人27名+子供2名

会員 30名(内4班23名) 合計59名(子供2名含む)

コース 明石公園太鼓門前~芝生広場~藤見池~日時計~石垣~本丸広場(昼食)

~天守台~こもればの小径~剛の池~太鼓門前 記録 4班 中塚順子

最低気温がマイナスになり、今季最強の寒波が大雪をもたらして日本中が凍りついた一週間だった。暖かいとされる明石といえども最高気温は5℃を超えず、昼食時には霰のような雪がちらついた。



藤見池に映る逆さ櫓(下見時の写真)



マガモたちが水面を揺らすと・・・櫓は消える・・・



ヒメガマの穂は1mmほどの小さな種を付けたモシヤモシヤの綿毛がはじけて飛んで行く。小さな種が水面に落ちたらどうなるか、ガラスの入れ物の中で実験してみた。小さな種は綿毛から落ちて、水の底に沈んでいった。水の中ではこんなことが起きているのか・・・



明石公園にはドングリの種類もたくさんあるが、あまり見かけないイチイガシの観察では、実や葉の観察に余念ない。子供の頃のようにイチイガシの実を拾う。





明石公園の日時計はとても立派で大きい。
明石市は「日本標準時の基準となる東経 135 度、
子午線上のまち」という意味で「子午線(しごせん)
のまち」と呼ばれている。ちょうど日が差してく
て 11 時何某を指しているが、均時差表により + や
- をほどこして時刻を推察しているところだ。か
なり正確な時刻がわかる (らしい)

「子 (し)」…ねずみ (夜中の 12 時ころ)

「午 (ん)」…うま (昼の 12 時ころ)

気温は低いですが晴れた空は青く、日差しも暖かい。天守は建てられなかったが、立派な三層の櫓と美しく整えられた石垣が見られる。いよいよ櫓の下の石垣を見ながら本丸に向かう。



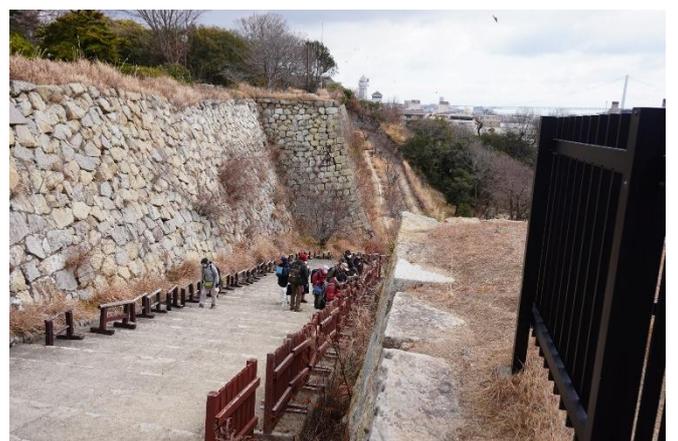
櫓の向きが異 (たつみ) 櫓は南を向いている。

西側からの防御のため坤 (ひつじさる) 櫓は西を向いている。

これから本丸跡広場から天守台に上がってから、詳しくその理由を聞くことになる。



石垣の上からのぞくといかに皆さんが真剣に説明を聞いてくださっているか、よくわかる。



あまり見かけないリュウキュウマメガキの説明も交え、2 基の立派な櫓の下を通過して本丸広場にむかう。



短い昼食休憩をはさんで、坤（ひつじさる）櫓前で明石城の歴史が詳しく説明された。

明石城は 1619 年に初代明石藩主小笠原忠政によって築かれた城で、巽櫓と坤櫓は国の重要文化財にされている。そして、日本に 1 2 基しか現存していない貴重な三重櫓だ。なお、小笠原忠政は徳川家康や織田信長をルーツに持つサラブレッドである。驚きだ。豊臣恩顧の西国大名から京・大坂を防衛する必要があった。姫路城に次ぐ防御の拠点として徳川秀忠の命により当時の貨幣価値として 31 億円を幕府から与えられている。町割（都市計画）

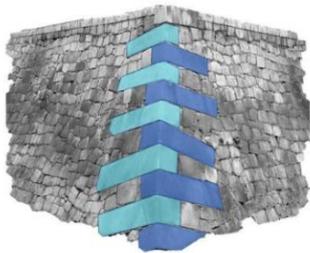
は宮本武蔵が担当した。このころの町割りを元にして発達した魚の棚商店街は今も活気に満ちている。

本丸に建てられていた 4 基の櫓のうち乾（いぬい）櫓と艮（うしとら）櫓は廃城令により解体され、艮櫓はその礎石のみが残されている。櫓の材は新しい学校などに利用された。

艮（うしとら）とは明石城の鬼門にあたる方角で、悪いものから守る門として建てられていた。田丸氏の説によれば鬼（おに）の姿は牛の角と虎（とら）のパンツがよく描かれているのは、鬼門の鬼と関係があると考えるのはおもしろいのではないか・・・（諸説あります） ちなみに、2025 年の恵方（巻きずしを食べる方角？）は西南西のあたり（255 度）らしい。その年の福德を司る「福德神」がいるとされる方角のことだ。今年もよい年であればいいなというありがたいお話だった（かも・・・）



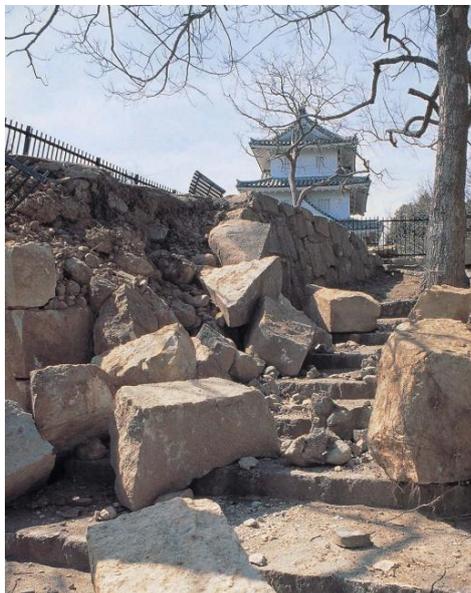
隅石を補強する特殊な積み方「算木積み」



明石城の石垣は算木積みという石垣の積み方で、隅（すみ）を強化する積み方で、細長い直方体の石材を長辺と短辺が互い違いになるように積み方である。東西 380m 高さ約 20m を誇る強固な石垣は当初築いた部分は花崗岩、その後、明石藩が補強修復した部分は主に凝灰岩（竜山石）が使われていて、石垣の歴史を見ることができる。

ところが・・・

1995 年に起こった阪神淡路大震災で石垣や櫓が大きく壊れた。右は巽櫓を櫓ごと曳屋工法で大修理をしている写真である。とてもきれいに修復されてよかった。なお、この工法で弘前城の工事も現在も続けられている。





今回は子供さんが参加してくださった。植物のいろいろなおもしろいことのみならず城や暦にも興味津々。とっても寒かったけど、よく参加してくれました。また来てね。
子どもさんや若い方にも興味を持って参加してもらえるような観察会になったら楽しいですね。



(yさん提供)

こもればの小径で一息ついていると大きなヤマモモの古木にぽっかり空いた樹洞（じゅどう）がある。「天空の・・・」というどこかで聞いたことがあるような名前がついている。この森が整備される前には、森の主として長い間ここに鎮座していたのだろう。この古木に敬意を払って中に入って上を仰ぐと青空と緑の木々が見えた。

植物だけでなく小さな生き物たちも、いろいろな場所や形態で寒い冬を過ごしていました。



ゴマダラチョウの幼虫



オオキンカメムシ (1/14撮影)

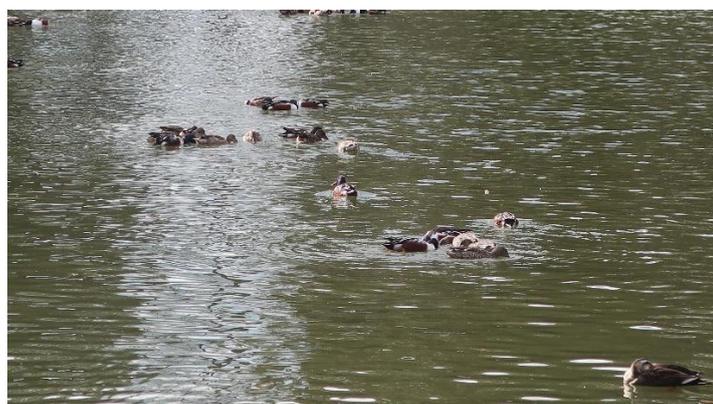


チビクワガタ

林の中に… 木の皮の下で… 土の中で… 水の中で… 卵の中で…
私たち人間は暖かい家の中で… こたつの中で… 暖かいコートや手袋をして…
あるいは南の島へ Go…
いきものたちの冬の過ごし方を今一度考えるきっかけになった。



戦いの時代にはこの剛の池は敵が城を攻めてきたときに、堰を切って水攻めにする目的もあったらしい。春には見事な桜の名所であり、冬鳥が羽を休めにやってくる。ヒドリガモ、ホシハジロ、ユリカモメ・・・



クルクルまわって餌を集めているハシビロガモ



頭から首にかけて白い婚姻色の羽をまとったカワウたちが、せわしなく巣材を集めている。子育て大丈夫かな？こんなに落葉した大木に目立つから、タカに狙われるのでは？

歴史も自然も寒空の下、ビジターさんには大いに楽しんでいただけたようだ。